

梅花短大 家本 修 ○滋賀女短大 成田巳代子

大谷女短大 小林昭子 樟蔭東女短大 山本倫子 鳴門教育大 広瀬月江

目的: 衣服や色の嗜好の形成に関して、母子間にどのような関係が存在し、影響を与えるのであろうか。母親の嗜好特性を把握し、児童の嗜好特性への影響度合と関係を明らかにするために、本報では母親自身の嗜好特性と体型の関係について報告する。

方法: 児童(5・6年生)とその母親を対象に色彩の嗜好性や生活行動等についての調査を実施した。調査は、親子同一番号の用紙を用いて、分析時点で組にできるように設定した。何れも質問紙調査法で、母親は託送調査である。実施時期: 昭和62年11月中旬～下旬。調査数: 357組; 有効回答数222組(有効回答率61.94%: 分析項目に完全に回答したもの)。調査地域: 大阪府堺市。調査対象校: 大阪府堺市立H小学校。主たる質問項目は、母親の嗜好色、着用したい服の色等色に関する項目、身長・体重・体型願望など体型に関する項目等である。集計分析は、クラスター分析・数量化Ⅱ類等である。

結果: ①体型に関する項目を元に、6クラスが求められた。「長身大柄型」「長身瘦身型」「短躯肥満型」「短躯標準型」「中背標準型」「中背瘦身型」である。(F:  $p < 0.01$ )  
 ②「好きな服の感じ」とクラスとの関係では、「長身大柄型」で「落ち着いた・おとなしい感じ」を、「中背標準型」「長身瘦身型」で「くだけた感じ」「スポーティ」が好まれる。  
 ③Ⅱ類から、「中背標準型」では、「グレー」や「ピンク」の色を好み、「長身大柄型」では「紺」が好まれている。  
 ④「長身大柄型」では、「黒」を似合うと考え、「中背標準型」では、「紺・赤」を似合うと考えている。これらから、母親では、体型や体型願望により、似合う色と好きな色は異なると考えられる。母親の平均年齢は、38.5才である。